

## 6. サケ, マス増殖環境調査

### I 調査目的

従来さけ, ます増殖に利用されていなかった河川の潜在的生産能力ならびに, 開発利用の可能性について河川環境変化の著しい河川を総合的に調査し, さけ, ます資源増大を図る。

### II 調査内容

1. 調査期間 昭和52年9月～53年1月
2. 調査場所
  - (1) 未利用河川 福浦川 }  
大佐井川 }  
古佐井川 } (下北郡佐井村)  
長後川 }  
牛滝川 }
  - (2) 環境変化河川 野辺地川 (上北郡野辺地町)
3. 担当者 次 長 頼 茂  
淡水養殖部長 長 峰 良 典  
技 師 原 口 健 二  
技 師 長 津 秀 二
4. 調査項目
  - (1) 物理化学環境 (水質・流量等)
  - (2) 生物環境 (底生生物・さけ, ますの生態等)
  - (3) その他の環境 (河川工作物・漁業実態等)

### III 調査結果

1. 水 質  
大佐井川は上流の大滝沢川に鉱山廃坑から出る浸透水が流入するため, 銅 (0.03～0.10 ppm) 亜鉛 (0.12～0.79 ppm) の金属汚染によって魚類が棲息出来ない状態となっている。  
また川水のふ化用水への利用も不可能である。  
他の河川ではPH, DO, BOD, SSS, 重金属について問題となる値は検出されなかった。
2. 底 生 生 物  
出現種は蜉蝣目, 双翅目が優先しているが量的には多くない。重量を比較すると長後川, 古佐

井川，福浦川，牛滝川，大佐井川の順であった。野辺地川も優先種は双翅目，蜻蛉目で上流域に多い傾向を示した。

### 3. 河川工作物

#### (1) 砂防ダム

福浦川，大佐井川，古佐井川各3基，長後川4基，牛滝川1基，野辺地川5基設置され堤高は0.5～15 mであるが何れにも魚道はつけられていない。

#### (2) 頭首工

野辺地川川口より2 km地点に鳴沢頭首工があり，魚道は設置されているが正常に作動していないため魚類のそ上を妨げている。

## Ⅳ 問題点

### 1. 福浦川

川口より1.3 km地点に砂防ダムを建設中で，魚道の設置も考慮されておらず，現在そ上しているサクラマス，アメマスは消滅する見込みが強い。

### 2. 大佐井川

前記のように廃坑の浸透水による汚染を除去するのが先決で，これによってサケのそ上が十分期待出来る。

### 3. 古佐井川

流量が少なくサケ，マス増殖河川として利用価値は小さい。

### 4. 長後川，牛滝川

流程が4～6 kmと短く，また川口より1 km地点に砂防ダムがあり魚のそ上を妨げている。

### 5. 野辺地川

鳴沢頭首工の魚道を整備し魚類のそ上を正常化する必要がある。同規模の河川と比べると水量も豊富で，管理の方法如何によって魚族資源の増大は十分可能である。